

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

{ 1 }

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
日本民家集落博物館入館者数	人	27,000	25,204	△ 1,796

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応		
①	5月大型連休中および3月祝日土日の雨天等天候不順による来館者の減少	<p>・5月大型連休期間中について、前年度実績並みを想定していたが、うち1日は大雨警報の天候により来館者が大幅減少したため。5月第一週の入館者数については、前年度約2,000人であったところ、当年度は約1,000人であった。</p> <p>・3月の入館者数増を期待できる祝日または土日が雨天となり、来館者が減少した。前年度約3,000人であったところ、当年度は約2,400人であった。</p>					<p>・服部緑地の指定管理者など民間事業者等との連携し服部緑地10月祭への協賛・参加事業として、体験イベント「秋の民集まつり」を開催したりや、民家を活用したクラシックコンサートやコスプレ等のイベントの誘致など趣向の異なる企画等により入館者増につなげる。</p> <p>・ホームページ・SNS・動画配信等を通じて博物館の存在と魅力を広くPRし、認知度を高める。雨天の魅力を配信し来館につなげる。</p>		
	関連項目名	入館者数	単位	人	R5当初想定値	5,000			R5実績値
②	7月の猛暑による来館者の減少	<p>・7月は連日大阪府内に熱中症警戒アラートが発出され、豊中市においては全国2位の最高気温を記録する日が続いたことから、外出を大幅に控える傾向になったため、来館者が減少した。</p> <p>・7月の入館者数については、前年度約1,100人であったところ、当年度は約850人であった。</p>					<p>夏季期間に味わえる魅力ある行事を展開し来館につなげる。</p>		
	関連項目名	入館者数	単位	人	R5当初想定値	1,100			R5実績値

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

{ 2 }

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
利用者一人あたり経費	円	866	924	58

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	目標入館者数の減少			<p>・博物館の運営経費は物価や人件費の大幅な上昇の影響がある中で、ここ10年ほどの間は年間約21,000千円で推移しており、学芸員やスタッフ等の人件費、博物館の維持管理経費に充てられている。厳しい予算状況の中、これまで学芸員やスタッフの配置人数や勤務時間等の見直しを行い無駄のない経費執行を行ってきた。</p> <p>・目標入館者数27,000人を見込み、利用者一人あたり経費を算出しており、実績25,000人であり、2,000人の不足であったため。</p> <p>・5月大型連休の天候不順（△1,000人）、7月の猛暑（△250人）、3月の天候不順（△600人）のため。</p>					<p>・服部緑地の指定管理者など民間事業者等との連携し服部緑地10月祭への協賛・参加事業として、体験イベント「秋の民集まつり」を開催したりや、民家を活用したクラシックコンサートやコスプレ等のイベントの誘致など趣向の異なる企画等により入館者増につなげる。</p> <p>・ホームページ・SNS等を通じて博物館の存在、情報等魅力を広くPRし、認知度を高め、新たな来館を促す。季節に応じた情報を発信する。</p>	
	関連項目名	経費	単位	円	R5当初想定値	866	R5実績値	924	差	58

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

[3]

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積	m ²	2,670	2,246	△ 424

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応	
①	事業者による事業量の変動や調査内容の変化			事業者都合の計画変更により事業件数減や調査面積縮小があった一方、新規事業の受託により、年間の当初予定調査面積（26,910m ² ）と実績調査面積（27,135m ² ）に大きな差が生じることはなかったが、新規については調査面積が狭くかつ地下深くまで調査範囲の及ぶものがあり、面積の割に期間を要することから担当者一人あたりの調査面積が減少したもの。						令和6年度に予定されている事業に対して事業者と綿密に進捗協議を行い、調査面積減を防ぐと共に新規事業については柔軟な人員配置により対応する。	
	関連項目名	面積	単位	m ²	R5当初想定値	2,670	R5実績値	2,246	差		

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

[4]

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
当期経常増減額	千円	△ 48,117	△ 128,876	△ 80,759

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応		
①	中部調査事務所機能移転にかかる費用（減価償却費等）の増			中部調査事務所撤去に伴う資産除去債務を137,600千円で見積もっていたが、R5年度に撤去費の設計委託を行った結果、222,121千円に変更となり、増加分84,521千円が減価償却費の増となったため。 （当初、アスベスト無と想定していたが撤去費設計委託により外壁塗料への含有が明らかとなり、除去工事費増となるため）							概算見積時の精度を高める。
	関連項目名	減価償却費等	単位	千円	R5当初想定値	0	R5実績値	△ 84,521	差	△ 84,521	
②	中部調査事務所機能移転にかかる移転先への運搬・工事等の費用の減			運搬や改修工事等の費用を48,117千円で見積もっていたが、一部先送りとなり28,683千円となったため。							変更要素を精査し、早期に検討する。
	関連項目名	委託費修繕費等	単位	千円	R5当初想定値	△ 48,117	R5実績値	△ 28,683	差	19,434	
③	埋蔵文化財調査事業の事業収益の不足			埋蔵文化財調査事業への職員配置は年度途中で新規に受託し、増加することができたが、一方、当初計画事業では事業者都合により先延ばし等により減少となった事業があり、当期経常増減額が収支相償とならず、マイナスとなったため。（約14,700千円）							令和6年度に予定されている事業に対し事業者と綿密な進捗協議を行い、遅延、縮小等を防ぐと共に新規事業については柔軟な人員配置により対応する。
	関連項目名	受託事業収益等	単位	千円	R5当初想定値	0	R5実績値	△ 14,700	差	△ 14,700	